

市事務事業の 外部評価結果

～市外部評価委員会～

学識経験者と市民公募者で構成する市外部評価委員会（委員8人）は、行政経営システムの中で取り組みを行っている事務事業のうち22の重点施策などを評価し、12月12日、市長に評価結果を報告しました。

評価に当たっては、全6回の委員会を開催し、担当課へのヒアリングや現地視察などを行い、各事務事業の取り組み状況の検証を行いました。

市は、この評価結果を今後の事務事業の改革・改善に反映していきます。

※行政経営システムとは、市のサービスや事務事業を継続的に改善する取り組みです。

●問い合わせ先 企画政策課（☎3721332）

【評価結果】

評価	事業数
A= 必要かつ有効であり推進することが妥当	21
B= 改善を図りながら継続することが妥当	1
C= 一部修正・再検討が必要	0
D= 見直し・休止・廃止について検討が必要	0
合計	22

▽22の事務事業について「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行った結果は、上表のとおりです。

▽評価点は、8人の委員が事務事業ごとに事業の妥当性や効率性などを5点満点で評価したものの平均です。

※22の事務事業を評価した結果の詳細は、6～8ページの表のとおりです。

【総評】

▽私たちが直面するさまざまな課題と情報を行政と市民が共有し、互いの役割と機能を深く理解しあいながら問題の解決へ向けて努力してください。また、あらゆるメディアソースを使って、自分たちの街の魅力や地域の特性を広く外に向けて発信し、街の活性化と相馬に住んでいるすべての人と環境にやさしく、災害に強いまちづくりを推進してください。

▽豊かな心の育成と学力向上のために、ソフト・ハードとカリキュラムの両面を整備し、教育環境の充実に努めると共に、社会の変化に対応した保育環境の整備と、

子育て世代に対する手厚い対応などの子育て環境の充実に努めてください。

▽これまでに整備した各施設が、有効かつ効率的に運用されるよう利用状況などの検証を行い、ソフト面の充実を図りながら、地域の人たちに利用され、愛される施設運営に当たってください。

▽放射線に関する正しい情報の発信、スポーツ施設や観光資源を生かした交流人口の拡大、また学校給食や宿泊施設、飲食店における地産地消の取り組みを通じ、原子力災害の風評払しょくを図り、将来世代の安心安全を担保する放射能対策関連事業の弛まぬ推進をお願いします。

外部評価委員からひとこと

梶田浩二委員長

今年度は現体制での評価委員会2年目ということで、各委員の方にあらゆる角度から厳しい目で22の事業を評価していただき、市民目線の評価結果を市長に報告できたものと思っています。災害被害の続く中、市職員の方にはたくさん課題を抱えながらも、数多くの資料を提供していただき本当にありがとうございます。これからは職員の意識レベル向上とともに、私たち市民一人一人も各行政事業に対して何ができるのか、どのようにすれば参画できるのかという意識を高め考えながら、住んでいてよかった相馬にするために、行動を起こしていかなければならないと思います。

No.	事務事業名	点数	評価	コメント
1	自主防災組織の育成指導と防災訓練の参加	4.2	A	幅広い市民全体の防災意識の向上のために、平時の班単位での集まりのときに、避難場所の確認、ハザードマップを活用した危険箇所の確認、緊急時の行動の確認などを必ず議題として取り上げ防災や減災に努めることを願います。
2	安心して子育てができる環境づくり	4.7	A	待機児童をゼロにするといったロードマップを考えながら、保育士を確保するための奨学金制度を継続し、保育士の確保にこれからも力を注ぐとともに、保育士の労働環境の整備も合わせて行き、子育て世代が安心できる環境づくりの充実を願います。
3	確かな学力の育成	4.6	A	読む、書く、考える、考えられるなどの力を向上させるために読書の時間、辞書を使うなど、ICT機器などを使用しながら、さまざまな工夫を図り、子どもたちの学習の格差が大きくなりたくないよう、学校側で各家庭の学習状況の把握を丁寧に行い、子どもたちの学習能力の向上につなげることを願います。
4	豊かな心の育成と生徒指導の充実	4.7	A	人を思いやる、故郷を思いやる、そして明日を考える力を作る、そのような豊かな心を育てる指導の充実と子どもたちを取り囲む環境による負の要素は段々と変化しているようです。子どもたちの成長とともに変化していく負の要素に専門家の意見を取り入れ、継続して事業の推進を願います。

※7ページに続く



外部評価結果を立谷市長に渡す評価委員

小畑強子委員

評価対象全体としての取り組みは良い評価となっておりですが、外部評価委員の視点と行政側の視点の温度差を感じた部分もあり、意見交換は大事であると感じました。教育、福祉に関しては、すぐに費用対効果が求められても結論の出ない部分が多いので、長い目でみなければならぬように思います。委員として、よりよい相馬市とはを考え続けていきたいと思っています。

伊東千恵子委員

今年度は22の事業を評価し、良い結果が得られました。予算が少ない中、大変でしょうが、住みやすい地域づくりができるような事業を推進してほしいと思います。評価をすることによって少しでも生活に活気と豊かさを実感できることを期待します。

No.	事務事業名	点数	評価	コメント
5	学校給食の充実	4.8	A	地産地消の学校給食とその安全性を発信しながら、食育という観点からは、3食をどのように取るか、何を取るによってそれがどのように全身の機能向上につながっていくか、また、生産者のことを想像しながら食べることは残菜減少にもつながるため、子どもたちにその考えを伝え、さらなる学校給食の充実を願います。
6	学校施設の整備と充実	4.6	A	子どもたちの教育環境としての学校の設備の充実は重要です。特別教室などへのエアコンの設置を最優先でお願いします。また、学校の改修工事の際は、工事の音による授業への影響を考慮し、より一層の騒音対策も検討して整備の充実を願います。
7	復興市民市場の整備と磯部水産加工施設の利活用	4.7	A	安心安全をアピールするためにあらゆるメディアを使い、また、放射能検査場の見える化を図りながら、安全性へのPRを積極的に行い、新たに創設される復興市民市場は市民や事業者の意見を取り入れ、相馬の水産物のPRや誘客に有効に活用していただき、磯部水産加工施設との連携を検討しつつ事業の推進を願います。
8	商店街の活性化	4.0	A	中心商店街の活性化は市全体の問題であり、観光客誘致の点からも喫緊の課題で自治体と商工会議所など関係団体との緊密な話し合いを行い、プレミアム商品券助成事業の効果を検証し、次へつなげられる事業の推進を願います。
9	歴史を活かした通年観光に向けた取り組み	3.9	B	四季を通じた観光となると問題点は数多くありますが、自然や史跡を活かした観光をアピールするためにすることは多々あります。街中の史跡めぐり案内板設置などできることを早急に行ってください。また、各課の横のつながりを強化し、情報を共有していろいろな広がり期待し、さらなる事業の推進を願います。
10	公民館活動の推進	4.7	A	地域住民の交流や世代間の交流も含めたさまざまな講座・イベントの企画、また市民のニーズに耳を傾けた企画、そして若者が集まるイベントやサービスを継続的に提案して公民館を中心とした地域住民全体が参加できるような公民館活動を願います。
11	図書館機能の充実	4.6	A	スマホでの読者が増える一方で本での読書も根強いニーズがあると思います。メディアを使った情報発信を積極的に実施し事業の活性化を図ってください。また、外国人の方が増えてきている現状にも考慮し、日本語以外の蔵書も増やし、相馬の顔となるような図書館機能の充実を願います。
12	音楽による生きる力をはぐくむ事業	4.5	A	音楽を含め優れた芸術文化に触れる機会があることは素晴らしいことだと思います。人間としての優しさや希望が生きる力につながっていく事業なので、継続して事業の推進を願います。
13	スポーツ施設の維持管理と利活用の促進	4.6	A	施設の維持管理にはNPOや関連団体との協力が必要であると思われるため、話し合いなどを緊密にしながら行ってください。また、来相者に対し市のパンフレットを渡すなど相馬の売り込みを積極的に行い、施設を利用するスポーツ人口の増加や交流大会開催を増やすよう取り組むことを願います。
14	ごみの減量化・再資源化	4.5	A	グローバルかつ身近な問題としてとらえる市民の意識改革が必要だと思います。ごみの排出量を減らすことに対する市民教育を考えていただき、プラスチックごみ、紙などの再資源化がごみの減量化につながっていくことを広報などで積極的にPR願います。
15	救急・救助体制の整備と消防団の充実	4.7	A	迅速な救急・救助体制の整備は、災害時のみならず平時においても必要不可欠なことであるのでますますの充実を願います。緊急時の行動などのスキルを身に付けておくことは、異常な気象状況が続く今、以前にも増して重要だと考えます。AEDの使い方だけでなく緊急時に身近にあるもので寒さをしのぐ、担架をつくるなどの実施体験なども検討していただき、継続して事業の推進を願います。

※ 8 ページに続く



外部評価委員による教育現場（中村第二小学校）の現地視察

櫻村竜也委員

昨年から1事業減り、22事業において担当の皆さんからの説明、現場視察、質疑を通じて充実した内容の評価ができたと思います。まずは事業の計画通りの実施をお願いします。今後とも市民の意見や我々の評価をくんで次年度の計画を立案いただき、老若男女の笑みの絶えない安全で明るい相馬市となるよう市政を進めてください。

土屋大典委員

今年度は外部評価対象事業22事業のうち、21事業がA評価となりました。各事業において市職員の皆さんが課題に対して真摯に取り組む姿勢を大いに感じることができました。相馬市も日々取り組む事業に加え、日々変化する社会情勢や、これからの日常化するであろう災害などへの対応など、今後も市政発展・安定、市民生活の安心・安全のために、市民、行政が一体となって進んでいくことを期待します。

管野貴拓委員

外部評価委員会へ参加させていただきまして2年目となりました。本年も市職員の皆さんより丁寧な説明を受け、事業内容を評価させていただきました。各部署とも懸命に取り組んでいることが良く分かりましたが、市民目線で見るともう少し改善できる点があったように思います。さらなる市政の発展を期待します。

鉾建千佳子委員

担当職員の方から丁寧な説明を受け、現地視察の機会を頂き、相馬市を思うとても素敵な職員の話を伺いながら、相馬市について考えるとても貴重な経験をさせていただきました。「言うは易し、行は難し」でさまざまな苦労はあるかと思いますが、「さらに魅力的な相馬市」を目指して、今後もご尽力いただきたいと思います。私も一市民として、できることを探し、ささやかに地道に行って参ります。

三國実加委員

今年度は22事業を評価させていただきました。そのうち21事業をA評価とすることができました。これは限られた予算の中で、最優先される事業を着実に実行している相馬市の取り組みが高評価され、それに関わる職員のご苦労のたまものだと思います。今後とも行政と市民が問題を共有し活気のある相馬をつくり、笑顔のある市民生活につながっていただきたいと思います。

No.	事務事業名	点数	評価	コメント
16	内部被ばく検査の継続	4.4	A	将来世代の安心安全確保のために市民に対して受診を促すとともに検出者に対する教育やモニタリングを行い、健康の維持を将来にわたって管理することと、また、被ばく線量検査を受診しても数値が低いと診断された方に対して継続した受診を促すなど、さらなる事業の推進を願います。
17	障がい者が安心して暮らすことができる環境の整備	4.4	A	基幹相談支援センターと併せて地域生活支援拠点も整備していただき、市民に対するノーマライゼーションの理念の浸透に努め、また、あらゆる障がい者の意見も反映できるように事業の充実活性化を願います。 ※ノーマライゼーション＝障がいのある人がない人と同等に生活し、ともにいきいきと活動できる社会を目指すこと。
18	適切な介護サービスの提供	4.5	A	健康寿命を延ばすために介護施設などにも積極的にアピールし、骨太けんこう体操の普及啓発、また、男性参加者を増やす工夫の検討を願います。また、介護職員初任者研修は介護する側とされる側両方にメリットがあるので継続するとともに、介護職員のスキルアップ研修の実施を願います。
19	生活道路の整備	4.7	A	緊急時、災害時における生活道路は重要であることから、緊急車両の通行が困難なところは早急に拡張整備を行い、道路に関するさまざまな情報を地域住民の方に速やかに提供するよう願います。
20	市営住宅の計画的な維持管理	4.5	A	老朽化した市営住宅の改修には数多くの問題点があると思われますが入居者との調整を図り、早期の実施を願います。
21	下水道施設の適正な維持管理	4.5	A	下水道未接続を少なくすべく努力をしていただき、老朽化した下水道の検査と改修を続け、計画的な維持管理に取り組み、将来にわたって、災害に強く住みよい相馬市になるようさらなる事業の推進を願います。
22	災害危険区域の土地利用・被災地公園の遊具等の整備	4.6	A	防災に関する指示板、避難経路案内板の設置を検討しながら、地域住民や利用者のニーズを考えた公園整備を願います。